

## RTX830 Rev.15.02.31 リリースノート

---

### ○ファームウェアのリビジョンアップを行う前に必ずお読みください

---

- ・ Rev.15.02.03より前のファームウェアからリビジョンアップを行う際には以下の点にご注意ください

Rev.15.02.03では以下の変更をしています。

「RTX830 Rev.15.02.03 リリースノート」より、  
[https://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/relnote/Rev.15.02/relnote\\_15\\_02\\_03.html](https://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/relnote/Rev.15.02/relnote_15_02_03.html)

[1] 本機にアクセスするときのセキュリティーを強化した。

(8) 工場出荷状態の設定にtelnetd host lanコマンドを追加した。

Rev.15.02.03以降のファームウェアを使用して工場出荷状態からプロバイダーを設定すると、上記のコマンドが設定されているため遠隔からTELNETでログインができなくなります。  
遠隔からTELNETでログインをする場合はtelnetd hostコマンドの設定を変更してください。

- ・ Rev.15.02.13より前のファームウェアからリビジョンアップを行う際には以下の点にご注意ください

「DPIを使用したアプリケーション制御機能」に対応したRev.15.02.13以降のファームウェアへリビジョンアップすると、Rev.15.02.10、またはそれ以前のファームウェアに対して工場出荷状態でのメモリー使用率が10%程度上昇します。

メモリーの空き容量が十分であることを確認のうえ、リビジョンアップを行うようにしてください。

---

### ○RTX830 Rev.15.02.30 からの変更点

---

#### ■機能追加

- [1] IPv6マイグレーション技術の国内標準プロビジョニング方式 (HB46PP) に対応した。

<https://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/hb46pp/index.html>

外部仕様書をよくご確認のうえ、ご利用ください。

- [2] VLAN相互接続インターフェースグループの設定に対応した。

○VLAN相互接続インターフェースグループの設定

[書式]

```
vlan interconnect group PHYS_LAN_INTERFACE GROUP [GROUP ...]
```

```
no vlan interconnect group PHYS_LAN_INTERFACE [GROUP ...]
```

[設定値及び初期値]

- ・ PHYS\_LAN\_INTERFACE : グループの設定対象となる物理LANインターフェース

[設定値] : 物理LANインターフェース名

[初期値] : -

- ・GROUP : グループを構成するLANインターフェース群

[設定値] :

- ・all : PHYS\_LAN\_INTERFACEに従属するすべてのLANインターフェースの相互接続を許可する (全開放)
- ・none : PHYS\_LAN\_INTERFACEに従属するすべてのLANインターフェースの相互接続を禁止する (全遮断)
- ・物理LANインターフェース名、または、仮想LANインターフェース名に「\$」(ドルマーク)を付与して指定
  - ・指定したLANインターフェースのみにPHYS\_LAN\_INTERFACEに従属する他のすべてのLANインターフェースとの相互接続を許可する
- ・仮想LANインターフェース名を「-」(ハイフン)で連結して指定
  - ・連続した仮想LANインターフェースの相互接続を許可する
- ・物理LANインターフェース名、および、仮想LANインターフェース名を「,」で連結して指定
  - ・列挙したLANインターフェースの相互接続を許可する

[初期値] : すべての物理LANインターフェースでall

#### [説明]

物理LANインターフェースごとに、相互に接続可能なLANインターフェースのグループを設定する。

仮想LANインターフェース (LAN分割インターフェース、または、タグVLANインターフェース) を使用する場合、初期状態では物理LANインターフェースとの間の通信、および、すべての仮想LANインターフェースとの間の通信が可能であるが、本コマンドによって相互に通信を許可するLANインターフェースのグループを任意に指定できる。

GROUPにallを指定した場合は、PHYS\_LAN\_INTERFACEに従属するすべてのLANインターフェースの相互接続が可能となる (全開放)。GROUPにnoneを指定した場合は、PHYS\_LAN\_INTERFACEに従属するすべてのLANインターフェースが互いに遮断され、相互接続ができなくなる (全遮断)。ただし、noneを指定した場合でも、PHYS\_LAN\_INTERFACEに指定した物理LANインターフェースには従属しない他の物理LANインターフェース、および、仮想LANインターフェースへの通信は遮断されない。なお、all/noneの指定は本コマンド実行後に作成した仮想LANインターフェースに対しても有効になるため、仮想LANインターフェースを増やす度に本コマンドを実行する必要はない。

相互接続を許可するグループを任意に設定する場合は、グループごとに複数の物理LANインターフェース名、および、仮想LANインターフェース名を「-」(ハイフン) または「,」(カンマ) で連結したLANインターフェース群をGROUPに指定する。

「\$」(ドルマーク) を使用すれば、すべてのLANインターフェースとのペアを簡略化して表現することができる。例えば、LAN分割インターフェース6個 (VLAN1~VLAN6) を使用しているとき、VLAN2インターフェースのみが他のすべてのLAN分割インターフェースとの相互接続を可能とする場合、GROUPは「vlan1,vlan2 vlan2,vlan3 vlan2,vlan4 vlan2,vlan5 vlan2,vlan6」のように5個のグループを指定する必要があるが、これを「vlan2\$」と簡略化して指定することができる。

「\$」はすべてのLANインターフェースと個別にペアになった複数のグループへ展開されることを意味する。同様に、タグVLANインターフェース10個 (LAN1/1~LAN1/10) を使用しているとき、lan1/1インターフェースのみが他のすべてのタグVLANインターフェースおよびNative VLANインターフェース (タグVLANを使用しないLAN1インターフェース) との相互接続を可能とする場合、GROUPは「lan1,lan1/1 lan1/1,lan1/2 lan1/1,lan1/3 lan1/1,lan1/4 lan1/1,lan1/5 lan1/1,lan1/6 lan1/1,lan1/7 lan1/1,lan1/8 lan1/1,lan1/9 lan1/1,lan1/10」のように10個のグループを指定する必要があるが、これを「lan1/1\$」と簡略化して指定することができる。

「\$」もall/noneの指定と同様に、本コマンド実行後に作成した仮想LANインターフェースに対しても有効になるため、仮想LANインターフェースを増やす度に本コマンドを実行する必要はない。

本コマンドに似た機能としてLAN分割拡張機能のポート分離機能があるが、ポー

ト分離機能は同一の仮想LANインターフェース内の通信（内蔵スイッチングハブ内で折り返される通信）を制御する機能であり、複数の仮想LANインターフェースをまたぐ通信は制御できない。本コマンドは複数の仮想LANインターフェースをまたぐ通信を制御できる。

LANインターフェースとLANインターフェース以外のインターフェース（PPインターフェースやTUNNELインターフェースなど）との間の通信、および、複数の物理LANインターフェースをまたぐ通信は本コマンドによる制御の対象外である。

IPフィルター機能と併用する場合は、OUT側IPフィルターのチェック処理の後で本コマンドによる通信制御処理が行われ、IPフィルター機能と本コマンドの両方で通信が許可されているパケットがインターフェース間を通過できる。

- [3] VLAN相互接続インターフェースグループによる通信制御のログを記録する機能を追加した。

○VLAN 相互接続インターフェースグループによる通信制御のログを記録するか否か  
[書式]

```
vlan interconnect log PHYS_LAN_INTERFACE TYPE [TYPE]
no vlan interconnect log PHYS_LAN_INTERFACE [TYPE [TYPE]]
```

[設定値及び初期値]

- ・ PHYS\_LAN\_INTERFACE : グループの設定対象となる物理LANインターフェース  
[設定値] : 物理LANインターフェース名  
[初期値] : -
- ・ TYPE  
[設定値] :

設定値	説明
pass	相互接続が許可されたインターフェース間の通信に関するログを記録する
reject	相互接続が許可されていないインターフェース間の遮断された通信に関するログを記録する

[初期値] : -

[説明]

VLAN相互接続インターフェースグループによる通信制御のログを記録するか否かを設定する。  
本コマンドを設定した場合、VLAN相互接続インターフェースグループで通信制御が行われた際にNOTICEレベルのsyslogを出力する。

- [4] RFC3164およびRFC5424形式のSYSLOGヘッダーに対応した。

○SYSLOGパケットの形式の設定

[書式]

```
syslog format type TYPE
no syslog format type [TYPE]
```

[設定値及び初期値]

- ・ TYPE  
[設定値] :

設定値	説明
rfc3164	RFC3164 形式の SYSLOG パケットを送信する
rfc5424	RFC5424 形式の SYSLOG パケットを送信する
yamaha	従来形式 (PRI+MSG) の SYSLOG パケットを送信する

[初期値] : yamaha

[説明]

本機が送信する SYSLOG パケットの形式を設定する。  
タイムスタンプは自動的に設定され、ホスト名は syslog header hostname コマンドで設定している名前が使用される。

RFC3164 形式は次の要素で構成された形式となる。

要素	内容
PRI	Facility+Severities
TIMESTAMP	"Mmm dd hh:mm:ss" 形式のタイムスタンプ
HOSTNAME	ホスト名 (1..63文字)
MSG	SYSLOG メッセージ (最大半角231文字)

RFC5424 形式は次の要素で構成された形式となる。

要素	内容
PRI	Facility+Severities
VERSION	"1" で固定
TIMESTAMP	"yyyy-mm-ddThh:mm:ss±offset" 形式のタイムスタンプ
HOSTNAME	ホスト名 (1..63文字)
APP-NAME	"-" で固定
PROCID	"-" で固定
MSGID	"-" で固定
STRUCTURED-DATA	"-" で固定
MSG	SYSLOG メッセージ (最大半角231文字)

yamaha 形式は次の要素で構成された形式となる。

要素	内容
PRI	Facility+Severities
MSG	SYSLOG メッセージ (最大半角231文字)

ORFC形式の SYSLOG ヘッダーのホスト名の設定

[書式]

```
syslog format hostname text NAME  
no syslog format hostname [text [NAME]]
```

[設定値及び初期値]

- ・ NAME  
[設定値] : ホスト名 (半角 1... 63 文字)  
[初期値] : "機種名-シリアル番号"

[説明]

本機が送信するSYSLOG ヘッダーのホスト名を設定する。  
syslog format type コマンドが rfc3164 または rfc5424 に設定されているとき、本コマンドで設定した値が使用される。  
NAME パラメーターにはアルファベット、数字、ハイフンのみを使用できる。

[5] IPv6 RAプロキシ機能で、経路情報オプションに対応した。

○ルーター広告で配布する経路情報オプションの定義

[書式]

```
ipv6 nd ra-route-info ROUTE_INFO_ID PREFIX/PREFIX_LEN [OPTION=VALUE]  
no ipv6 nd ra-route-info ROUTE_INFO_ID [...]
```

[設定値及び初期値]

- ・ ROUTE\_INFO\_ID  
[設定値] : 経路情報オプション番号 (1..21474836)  
[初期値] : -
- ・ PREFIX  
[設定値] : プレフィックス  
[初期値] : -
- ・ PREFIX\_LEN  
[設定値] : プレフィックス長

- [初期値] : -
- ・ OPTION=VALUE : NAME=VALUE の列
- [設定値] :

NAME	VALUE	説明
prf_flag	high、medium、low	Route Preferenceフラグ。経路の優先度を示す設定。
lifetime	秒数、infinity	経路情報の有効時間

(0. . 4294967294 秒)

infinity は経路情報を無期限で使用できることを示す。

[初期値] :

- ・ prf\_flag = medium
- ・ lifetime = ipv6 interface rtadv send コマンドのルーター広告を送信する最大間隔 (max-rtr-adv-interval) の3倍

[説明]

ルーター広告で配布する経路情報オプションを定義する。実際に広告するためには、ipv6 interface rtadv send コマンドの route-info オプションの設定が必要である。

### ○ルーター広告の送信の制御

[書式]

```

ipv6 INTERFACE rtadv send PREFIX_ID [PREFIX_ID...] [OPTION=VALUE...]
ipv6 pp rtadv send PREFIX_ID [PREFIX_ID...] [OPTION=VALUE...]
no ipv6 INTERFACE rtadv send [...]
no ipv6 pp rtadv send [...]

```

[設定値及び初期値]

- ・ INTERFACE
  - [設定値] : LAN インターフェース名
  - [初期値] : -
- ・ PREFIX\_ID
  - [設定値] : プレフィックス番号
  - [初期値] : -
- ・ OPTION=VALUE : NAME=VALUE の列
- [設定値] :

NAME	VALUE	説明
m_flag	on、off	managed address configurationフラグ。ルーター広告による自動設定とは別に、DHCP6に代表されるルーター広告以外の手段によるアドレス自動設定をホストに許可させるか否かの設定。
o_flag	on、off	other stateful configurationフラグ。ルーター広告以外の手段によりIPv6アドレス以外のオプション情報をホストに自動的に取得させるか否かの設定。
prf_flag	high、medium、low	Default Router Preferenceフラグ。ルーター広告の優先度を示す設定。
max-rtr-adv-interval	秒数	ルーター広告を送信する最大間隔 (4-1, 800秒)
min-rtr-adv-interval	秒数	ルーター広告を送信する最小間隔 (3-1, 350秒)
adv-default-lifetime	秒数	ルーター広告によって設定される端末のデフォルト経路の有効時間 (0-9, 000秒)

	adv-reachable-time	ミリ秒数	ルーター広告を受信した端末が、ノード間で確認した到達性の有効時間 (0-3, 600, 000 ミリ秒)
	adv-retrans-time	ミリ秒数	ルーター広告を再送する間隔 (0-4, 294, 967, 295 ミリ秒)
	adv-cur-hop-limit	ホップ数	ルーター広告の限界ホップ数 (0-255)
	mtu	auto、off、バイト数	ルーター広告にMTUオプションを含めるか否かと、含める場合の値の設定。autoの場合はインターフェースのMTUを採用する。
route-info	route-info	route-info、off、経路情報オプション番号	ルーター広告に経路情報オプションを含めるか否かと、含める場合の値の設定。
route-info			の場合はRAの経路情報オプションで割り当てられた経路情報を通知する。 . . . ★
	rdnss	rdnss、off、dhcpv6 RDNSSオプション番号	ルーター広告にRDNSSオプションを含めるか否かと、含める場合の値の設定。rdnssの場合はRAのRDNSSオプションで割り当てられたサーバー群を通知する。
	dnssl	dnssl、off、DNSSL オプション番号	ルーター広告に DNSSL オプションを含めるか否かと、含める場合の値の設定。dnsslの場合はRAのDNSSLオプションで割り当てられたサーバー群を通知する。

[初期値] :

- m\_flag = off
- o\_flag = off
- prf\_flag = medium
- max-rtr-adv-interval = 600
- min-rtr-adv-interval = 200
- adv-default-lifetime = 1800
- adv-reachable-time = 0
- adv-retrans-time = 0
- adv-cur-hop-limit = 64
- mtu = auto
- route-info = route-info . . . ★
- rdnss = rdnss
- dnssl = dnssl

[説明]

インターフェースごとにルーター広告の送信を制御する。送信されるプレフィックスとして、ipv6 prefix コマンドで設定されたものが用いられる。また、オプションとして m\_flag および o\_flag を利用して、管理するホストがルーター広告以外の自動設定情報をどのように解釈するかを設定することができる。オプションでは、送信するルーター広告の送信間隔や、ルーター広告に含まれる情報の設定を行うこともできる。

[6] Web GUIの詳細設定で、VLANの設定ページを追加した。

- [7] Web GUIのLANマップの[マップ]で、SWX2220-10NT/SWX2221P-10NTで以下に対応した。
- 「リンクアグリゲーション ロードバランサーの設定」ダイアログで、「受信インターフェース」を設定できるようにした
  - 「リンクアグリゲーションの基本設定」ダイアログで、LACPを設定できるようにした
  - 機器詳細と設定ビューに「消費電力」を表示するようにした

## ■仕様変更

- [1] NAT46/DNS46機能の処理性能を向上させた。
- [2] SFTPサーバー機能で、Put結果を示すSYSLOGメッセージが正しく表示されない可能性を排除した。  
ただし、実機上でこの現象が発現することは確認できていない。
- [3] show status bridgeコマンドで、ブリッジインターフェースに收容されたLANインターフェースのMTUを表示するようにした。
- [4] 以下のコマンドで、対象インターフェースのMTUを表示するようにした。
  - show status lan
  - show status pp
  - show status tunnel
- [5] nat descriptor staticコマンドで、重複するアドレス設定を許容し、重複したアドレスの場合は若い識別番号の設定を使用するように変更した。
- [6] show nat descriptor addressコマンドの表示内容を変更した。
  - 外側アドレスの昇順で表示するようにした。
  - 重複するアドレス設定について、より識別番号が若い設定のみ表示するようにした。
  - 静的NATエントリーをネットワークアドレスごとに集約して表示するようにした。
    - サブネットマスク長が24ビット以下のとき  
xxx.xxx.xxx.xxx/XX (XXはネットマスク長)
    - サブネットマスク長が24ビットより長いとき、またはネットワークアドレスに一致しないとき  
xxx.xxx.xxx.xxx-zzz (zzzは終端のアドレス)
- [7] ip keepaliveコマンドで、logオプションがonのとき、SYSLOGに出力されるip keepaliveコマンドの識別番号の表示を3桁から4桁に変更した。
- [8] Web GUIのダッシュボードの[Live]-[インターフェース情報]ガジェットで、各LANインターフェースのツールチップにMTUを表示するようにした。
- [9] Web GUIのかんたん設定の[VPN]-[リモートアクセス]-[共通設定]で、設定項目に「クライアントに割り当てるIPアドレス」を追加した。
- [10] Web GUIの管理の[アクセス管理]-[ユーザーの設定]で、設定・確認画面のタイトルを「ユーザーアカウントの設定」に変更した。
- [11] Web GUIの以下のページで、[AFTR の FQDN]の入力項目を追加した。
  - かんたん設定の[プロバイダー接続]
  - 詳細設定の[プロバイダー接続]
    - transix IPv4 接続 (DS-Lite)
- [12] Web GUIの以下のページで、パスワードに半角記号を使用できるようにした。
  - かんたん設定の[プロバイダー接続]
  - 詳細設定の[プロバイダー接続]
    - BIGLOBE IPv6サービス (IPIP)
- [13] Web GUIのかんたん設定、および詳細設定の[プロバイダー接続]で、v6プラスの表記を一部変更した。
- [14] Web GUIのかんたん設定の[プロバイダー接続]、および詳細設定の[プロバイダー接続]で、以下を設定したときのトンネルインターフェースのMTUの値を1280から1460へ変更した。
  - BIGLOBE
  - transix
  - v6 コネクト
  - クロスパス (Xpass)

- [15] Web GUIのかんたん設定の[プロバイダー接続]および詳細設定の[プロバイダー接続]で接続種別にIPv6 IPoE接続を選択したとき、IPv4 over IPv6トンネルの設定に「国内標準プロビジョニング方式による自動接続」を選択できるようにした。
- [16] Web GUIのかんたん設定および詳細設定の[プロバイダー接続]で、LAN分割時にIPv4 over IPv6トンネルを設定できるようにした。
- [17] Web GUIのかんたん設定の[VPN]-[クラウド接続]で、設定可能なAmazon VPCのリージョンを追加した。  
  
詳細は、以下の外部仕様書をご確認ください。  
[https://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/cloud\\_vpn/amazon-vpc\\_api.html](https://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/cloud_vpn/amazon-vpc_api.html)
- [18] Web GUIのかんたん設定の[プロバイダー接続]および詳細設定の[プロバイダー接続]で、クロスパス(Xpass)固定IP1契約の設定を新規に作成するとき、[インターフェイスID]の入力欄の初期値を空欄から1に変更した。
- [19] Web GUIのかんたん設定の[アプリケーション制御]で、「フィルターと経路の設定」から設定するアプリケーションに以下のアプリケーションを追加した。
  - SNS : Threads

## ■バグ修正

- [1] 大量の経路情報が削除されたとき、リポートすることがあるバグを修正した。
- [2] YNOエージェント機能で、セキュリティ装置等によりYN0マネージャーからの応答が正しく返って来ない場合にリポートすることがあるバグを修正した。
- [3] L2TPv3で、l2tp remote end-idコマンドに対向と異なるend-idを設定したとき、リポートすることがあるバグを修正した。
- [4] BGP機能を使用しているとき、近隣ルーター宛ての経路とBGPで受信した経路より優先度の高い経路を同時に削除するとリポートすることがあるバグを修正した。
- [5] 外部メモリー機能で、外部メモリー内に壊れたファイルが存在している状態で、外部メモリーに関する操作を行うとリポートすることがあるバグを修正した。
  - ルーターを起動する（外部メモリー起動）
  - copy config
  - copy exec
  - show exec list
  - execute batch
  - 外部メモリーボタン+DOWNLOADボタンによるcopy config, copy exec, batch実行
- [6] SNMPで、SYNTAXがOCTET STRINGのMIBオブジェクトの値を取得すると、取得に失敗したりリポートしたりすることがあるバグを修正した。
- [7] メモリー使用率が100%に近い状態で、以下の場合にメモリーリークが発生するバグを修正した。
  - 以下のコマンドを実行したとき
    - show config
    - show config N
    - show config pp
    - show config tunnel
    - show ip secure filter
    - show ipv6 secure filter
    - show config difference
    - rollback timer
    - show config ap
    - show config switch
  - rollback timerコマンドでタイムアウトが発生したとき
  - loadコマンドのrollback-timerオプションでタイムアウトが発生したとき

Rev. 15. 02. 03以降で発生する。

- [8] ヘアピンNAT機能で、静的NATの外側アドレスへアクセスできないことがあるバグを修正した。
- [9] IKEv2で、Configurationペイロードを対向の機器から受信したときに拠点間接続が行えないことがあるバグを修正した。
- [10] IPsec機能で、NATトラバーサルを利用したインターネット接続をしているとき、GPU使用率が高騰することがあるバグを修正した。
- [11] SNMPで、以下のプライベートMIBの値を取得するとき、正しい値が取得できないことがあるバグを修正した。
  - yrIfPpInOctets (1. 3. 6. 1. 4. 1. 1182. 2. 3. 9. 1. 10)
  - yrIfPpInUcastPkts (1. 3. 6. 1. 4. 1. 1182. 2. 3. 9. 1. 11)
  - yrIfPpInNUcastPkts (1. 3. 6. 1. 4. 1. 1182. 2. 3. 9. 1. 12)
  - yrIfPpInDiscards (1. 3. 6. 1. 4. 1. 1182. 2. 3. 9. 1. 13)
  - yrIfPpInErrors (1. 3. 6. 1. 4. 1. 1182. 2. 3. 9. 1. 14)
  - yrIfPpInUnknownProtos (1. 3. 6. 1. 4. 1. 1182. 2. 3. 9. 1. 15)
  - yrIfPpOutOctets (1. 3. 6. 1. 4. 1. 1182. 2. 3. 9. 1. 16)
  - yrIfPpOutUcastPkts (1. 3. 6. 1. 4. 1. 1182. 2. 3. 9. 1. 17)
  - yrIfPpOutNUcastPkts (1. 3. 6. 1. 4. 1. 1182. 2. 3. 9. 1. 18)
  - yrIfPpOutDiscards (1. 3. 6. 1. 4. 1. 1182. 2. 3. 9. 1. 19)
  - yrIfPpOutErrors (1. 3. 6. 1. 4. 1. 1182. 2. 3. 9. 1. 20)

Rev. 15. 02. 03以降で発生する。

- [12] ARP要求を受信したとき、そのARP要求の宛先IPアドレスが受信インターフェースと異なるインターフェースのIPアドレスだった場合に、ProxyARPが無効であってもARP応答してしまうバグを修正した。
- [13] IPv6で、IPv6ファストパスで処理されるはずの packets がノーマルパスで処理されるようになり、それ以降IPv6の通信速度が低下することがあるバグを修正した。

Rev. 15. 02. 30で発生する。

- [14] Luaスクリプト機能で以下のライブラリ関数を使用すると、ルーターの動作が不安定になる可能性を排除した。
  - rt.socket.dns.tohostname
  - rt.socket.dns.toip
  - TCPオブジェクト (rt.socket.tcp)
    - connect
    - bind
  - UDPオブジェクト (rt.socket.udp)
    - setpeername
    - setsockname
- [15] QoS機能で、最大スループットが不当に低下することがあるバグを修正した。

Rev. 15. 02. 30で発生する。

- [16] QoS機能で、vlan1に設定したクラスフィルタが、その他のVLANインターフェースにも適用されるバグを修正した。
- [17] IPv4フラグメントパケットを経路情報に従って転送した後、同じ送信元アドレスでIPヘッダーのIDが同じパケットを受信したときに経路情報を無視して、先のIPv4フラグメントパケットと同じ経路に送信することがあるバグを修正した。
- [18] 以下のパケットをブリッジインターフェース経由で転送すると、IPv4パケットとしてカウントされるバグを修正した。
  - IPv6でファストパス対象外のパケット
  - IPプロトコル以外のパケット(ARPなど)
- [19] pp anonymous接続で、同時に複数接続したときに2番目以降の接続でパケット転送

フィルターが動作しないバグを修正した。

- [20] RIPv2で、過去に受信した経路と宛先が同じでメトリックとネクストホップが異なる経路を同じ広告元から受信したとき、show ip rip tableコマンドのゲートウェイが新しく受信した経路のネクストホップに更新されないバグを修正した。
- [21] RIPv2で、過去に受信した経路と宛先やメトリックが同じでネクストホップが異なる経路を同じ広告元から受信したとき、該当経路のゲートウェイが新しく受信した経路のネクストホップに更新されないバグを修正した。
- [22] NAT46機能で、トンネルインターフェースで発生する以下のバグを修正した。
  - ノーマルパス経由の packets がカウントされない
  - トンネルインターフェースにIPv6フィルターを設定すると意図しない packets がフィルタリングされる

Rev. 15. 02. 27以降で発生する。

- [23] NAT46機能で、トンネルインターフェースでファストパスの packets がカウントされないバグを修正した。
- [24] queue INTERFACE class propertyコマンドのBANDWIDTHパラメーターで、保証帯域と上限帯域の速度を数値とパーセンテージの組み合わせで設定できるバグを修正した。
- [25] no nat descriptor backward-compatibilityコマンドでNAT機能の動作タイプが変化すると、再起動により設定が有効になる前に、以下のコマンドで表示される動作タイプが変化後の値になってしまうバグを修正した。
  - show nat descriptor address
  - show nat descriptor interface address
  - show nat descriptor interface address pp
  - show nat descriptor interface address tunnel
  - show nat descriptor interface bind
  - show nat descriptor interface bind pp
  - show nat descriptor interface bind tunnel
  - show nat descriptor masquerade port summary
  - show nat descriptor masquerade session statistics
  - show nat descriptor masquerade session summary
- [26] 複数のip keepaliveコマンドを設定しているとき、STATUSランプが正しく動作しないことがあるバグを修正した。
- [27] dns server selectコマンドの以下のバグを修正した。
  - 以下のパラメーターで0. 0. 0. 0および::0が指定できる
    - プライマリーDNSサーバーのIPアドレス
    - セカンダリーDNSサーバーのIPアドレス
    - peer\_numパラメーターで指定した接続相手からDNSサーバーを獲得できなかったときに使うDNSサーバーのIPアドレス
  - 以下のパラメーターで0. 0. 0. 0が指定できる
    - DNSレコードタイプにptrを指定したときのDNS問い合わせの内容
- [28] dns hostコマンドで、設定値に以下のキーワードを指定しているとき、IPv6のDNS packetsを受信すると packets の送受信ができなくなることがあるバグを修正した。
  - bridge1
  - lan
  - lanN
  - lanN/M
  - vlanN
  - wan1
- [29] lan typeコマンドで、MTUに1280未満を設定したとき、IPv6のMTUに1280未満が適用されてしまうバグを修正した。  
この修正により、lan typeコマンドでMTUに1280未満を設定したとき、ipv6 INTERFACE mtuコマンドの設定値に関わらず、IPv6のMTUには1280が適用される。

- [30] nat descriptor staticコマンドで、ネットマスクを設定したときにそのネットワークの先頭以外のアドレスが設定されていると、変換範囲が後ろにスライドしてしまうバグを修正した。
- [31] ip pp remote addressコマンドで、IPアドレスを2つ以上設定したときにエラーにならないバグを修正した。
- [32] no ipv6 nd ra-rdnssコマンドで、登録されていないRDNSSオプション番号を指定したとき、エラーにならないバグを修正した。
- [33] Web GUIで、以下のプロバイダー接続とIPIPを使用したVPN拠点間接続を設定した状態で、IPIPを使用したVPN拠点間接続の設定を全て削除したとき、拠点間接続の静的IPマスカレードの設定が削除されないバグを修正した。
- BIGLOBE IPv6サービス (IPIP)
  - transix
    - IPv4 接続 (DS-Lite)
    - IPv4 接続 (固定 IP)
  - v6 コネクト
    - IPv4 over IPv6 接続 (DS-Lite)
    - IPv4 over IPv6 接続 (IPIP)
  - 「v6プラス」固定 IP サービス
  - クロスパス (Xpass)
    - 可変 IP 契約
    - 固定 IP1 契約

- [34] Web GUIのかんたん設定の[VPN]で、以下のプロバイダー接続のインターフェースに対してVPN接続を設定したとき、静的IPマスカレードの設定が追加されるバグを修正した。
- かんたん設定の[プロバイダー接続]
  - 詳細設定の[プロバイダー接続]
    - BIGLOBE IPv6オプション
    - OCNバーチャルコネクト 動的IP契約
    - 「v6プラス」IPv6/IPv4インターネットサービス

Rev. 15. 02. 29以降で発生する。

- [35] Web GUIのかんたん設定の[VPN]-[拠点間接続]-[IPIPに関する設定]-[ポート開放の設定]に、かんたん設定または詳細設定の[プロバイダー接続]で設定した以下のプロバイダーのインターフェースが表示されるバグを修正した。
- BIGLOBE IPv6オプション
  - OCNバーチャルコネクト 動的IP契約
  - transix IPv4 接続 (DS-Lite)
  - v6コネクト IPv4 over IPv6 接続 (DS-Lite)
  - 「v6プラス」IPv6/IPv4インターネットサービス
  - クロスパス (Xpass) 可変 IP 契約

Rev. 15. 02. 29以降で発生する。

- [36] Web GUIのかんたん設定の[プロバイダー接続]で、PPPoE接続の「PPインターフェースの IPアドレス」に「指定する」を選択し新規作成したとき以下のコマンドが設定されるバグを修正した。
- ppp ipcp ipaddress on
- [37] Web GUIのかんたん設定の[VPN]-[拠点間接続]-[IPIPに関する設定]で、「接続先のホスト名またはIPアドレス」に上限値の64文字を超える文字列を設定しようとしたとき、不適切なエラーメッセージが表示されるバグを修正した。
- [38] Web GUIのLANマップで、スイッチのポートの給電操作を行った後に再度[ポートの給電操作]ボタンを押したとき、不正なダイアログが表示されることがあるバグを修正した。

- [39] Web GUIで、複数のプロバイダー接続を設定している状態から1つの設定を削除したとき、DNSサーバーが正しく更新されないことがあるバグを修正した。
- [40] Web GUIのかんたん設定の[プロバイダー接続]で、v6コネク ト IPv4 over IPv6接続 (IPIP)を選択している状態で「DNSサーバーの設定」の「戻る」を押したとき、「IPv4 over IPv6トンネルの設定」のv6コネク ト IPv4 over IPv6接続 (DS-Lite)の入力項目がグレーアウトされないバグを修正した。
- [41] Web GUIのかんたん設定の[プロバイダー接続]-[DNSサーバーの設定]で、「プロバイダーとの契約書にDNSサーバーアドレスの指定がある」を選択したとき、dns serverコマンドに設定されていたDNSサーバーアドレスが上書きされるバグを修正した。
- [42] Web GUIのかんたん設定の[プロバイダー接続]-[DNSサーバーの設定]で、以下のプロバイダー接続で「DNSサーバーアドレスを指定しない、またはプロバイダーから自動取得」を選択したとき、dns serverコマンドの設定が意図せず削除されるバグを修正した。
  - DHCP、または固定IPアドレスによる接続
  - IPv6 IPoE接続
  - モバイル接続 (イーサネット方式)
- [43] Web GUIのかんたん設定の[プロバイダー接続]-[DNSサーバーの設定]で、以下のプロバイダー接続を「プロバイダーとの契約書にDNSサーバーアドレスの指定がある」を選択したとき、dns server dhcpコマンドの設定が意図せず削除されるバグを修正した。
  - DHCP、または固定IPアドレスによる接続
  - モバイル接続 (イーサネット方式)
- [44] Web GUIの詳細設定の[プロバイダー接続]-[DNSサーバーの設定]で、「手動で設定する」を指定して新規作成もしくは設定変更したとき、dns serverコマンドが設定されないバグを修正した。
- [45] Web GUIの詳細設定の[プロバイダー接続]-[DNSサーバーの設定]で、「プロバイダーから自動取得する」を指定して新規作成もしくは設定変更したとき、それぞれの接続種別で以下のコマンドが設定されないバグを修正した。
  - dns server ppコマンド
    - PPPoE接続
    - IPv6 PPPoE接続
    - モバイル接続 (モデム方式)
  - dns server dhcpコマンド
    - DHCP、または固定IPアドレスによる接続
    - IPv6 IPoE接続
    - モバイル接続 (イーサネット方式)
- [46] Web GUIのLANマップの[エージェントの管理]ダイアログで、以下の条件をすべて満たすとき、設定されているバックアップ経路が表示されないバグを修正した。
  - LAN分割機能を使用している
  - LAN分割インターフェースにエージェントとしてスイッチを接続している
  - LAN分割インターフェースに割り当てられているポートが1つである
- [47] Web GUIのLANマップで、以下の条件をすべて満たすとき、バックアップ経路への切り替えが発生しても異常が表示されないバグを修正した。
  - LAN分割機能を使用している
  - LAN分割インターフェースにエージェントとしてスイッチを接続している
  - LAN分割インターフェースに割り当てられているポートが1つである
- [48] Web GUIのかんたん設定と詳細設定の[プロバイダー接続]で、プロバイダー接続の設定時にLuaスクリプトから取得した内容が表示されないことがあるバグを修正した。
- [49] Web GUIのかんたん設定および詳細設定の[プロバイダー接続]で、データコネク トの設定を持つインターフェースにプロバイダー接続を設定したとき、dns hostコマンドに不要なインターフェースが設定されるバグを修正した。

- [50] Web GUIのLANマップで、以下のインターフェースでタグVLANページへ遷移するボタンが表示されるバグを修正した。
- ポート分離機能が有効なLANインターフェース
  - LAN分割インターフェース
  - 上記のいずれかを収容したブリッジインターフェース
- [51] Web GUIのLANマップのタグVLAN画面で、VLANグループを削除するときにWeb GUIにアクセスできなくなる可能性がある旨の警告メッセージを表示するようにした。
- [52] Web GUIのLANマップの通知/履歴エリアで、表示されたツールチップが消えないことがあるバグを修正した。
- [53] clear statusコマンドを実行すると、Web GUIのダッシュボードの以下のガジェットのグラフが崩れて表示されることがあるバグを修正した。
- トラフィック情報 (LAN)
  - トラフィック情報 (PP)
  - トラフィック情報 (TUNNEL)
- [54] Web GUIのLANマップで、以下のL2MSエージェントのポートのクロスストレート自動判別、およびEEE (Energy Efficient Ethernet) の設定を変更できないバグを修正した。
- SWX2110\_5G
  - SWX2110\_8G
  - SWX2110\_16G
  - SWX2110P\_8G
  - SWX2210\_8G
  - SWX2210\_16G
  - SWX2210\_24G
  - SWX2210P\_10G
  - SWX2210P\_18G
  - SWX2210P\_28G

Rev. 15. 02. 30で発生する。

- [55] Web GUIのダッシュボードの「プロバイダー接続状態」ガジェットで、IPv4 over IPv6トンネルを使用するプロバイダー接続のトンネルインターフェースが表示されないバグを修正した。
- [56] Web GUIのかんたん設定と詳細設定の[プロバイダー接続]の以下のページで、nat descriptor backward-compatibility コマンドに1が設定されていると、入力内容を確認する際にNAT動作タイプに関する不要な警告メッセージが表示されるバグを修正した。
- transix IPv4 接続 (DS-Lite)
  - transix IPv4 接続 (固定 IP)
  - v6 コネクト IPv4 over IPv6 接続 (DS-Lite)
  - v6 コネクト IPv4 over IPv6 接続 (IPIP)
  - クロスパス (Xpass) 可変 IP 契約
  - クロスパス (Xpass) 固定 IP1 契約
- [57] Web GUIの以下のページで、IPv6 IPoE接続の新規作成を行うとき、「戻る」ボタンで画面遷移した場合に入力内容がリセットされてしまうことがあるバグを修正した。
- かんたん設定の[プロバイダー接続]
    - 接続種別の選択
    - プロバイダー情報の設定
- [58] Web GUIのかんたん設定および詳細設定の[プロバイダー接続]で、データコネクトの設定を持つインターフェースに設定された以下のプロバイダー接続を削除したとき、LAN1インターフェースのIPv6アドレスの設定が不正に削除されるバグを修正した。
- IPv6 IPoE接続
    - BIGLOBE IPv6サービス (IPIP)
    - transix IPv4 接続 (固定 IP)
    - v6 コネクト IPv4 over IPv6 接続 (IPIP)

- v6プラス固定 IP サービス
  - クロスパス (Xpass) 固定 IP1 契約
- [59] Web GUIのダッシュボードの「プロバイダー接続状態」ガジェットで、LAN分割インターフェースに設定した以下の種別のプロバイダー接続の情報が表示されないバグを修正した。
- IPv6 IPoE接続
  - DHCP、または固定IPアドレスによる接続
- [60] Web GUIの以下のページで、誤記を修正した。
- 管理の[保守]-[再起動と初期化]-[初期化]
  - LANマップの「スナップショットの保存」ダイアログ
- [61] Web GUIのヘルプページで、誤記を修正した。
- LANマップの[詳細]-[マップ]
  - かんたん設定の[基本設定]-[管理パスワード]
  - かんたん設定の[プロバイダー接続]
  - 詳細設定の[プロバイダー接続]
  - 詳細設定の[ルーティング]
  - 詳細設定の[DHCPサーバー]
  - 管理の[アクセス管理]-[ユーザーの設定]
- [62] 以下のコマンドのコマンドヘルプの誤記を修正した。
- bgp aggregate filter
  - bgp export filter
  - bgp import filter
  - clear nat descriptor dynamic
  - clear nat descriptor masquerade session statistics
  - ip INTERFACE nat descriptor
  - ipv6 nd ra-dnssl
  - ipv6 nd ra-rdnss
  - nat descriptor address inner
  - nat descriptor address outer
  - nat descriptor ftp port
  - nat descriptor masquerade incoming
  - nat descriptor masquerade port range
  - nat descriptor masquerade unconvertible port
  - nat descriptor masquerade rlogin
  - nat descriptor masquerade session limit
  - nat descriptor masquerade session limit total
  - nat descriptor masquerade static
  - nat descriptor sip
  - nat descriptor static
  - nat descriptor timer
  - nat descriptor type
  - nat46 ipv6 prefix
  - nat46 static
  - ospf export filter
  - ospf import filter
  - show nat descriptor address
  - show nat descriptor masquerade port
  - show nat descriptor masquerade session
  - show nat descriptor masquerade session statistics

---

## ■更新履歴

Jul. 2024, Rev. 15.02.31 リリース  
Jul. 2024, バグ修正[22] 文面修正

以上